

タイトル

人類の叫びを聞け！～世界を知ること、考えるべきこと～

実践場所	静岡県	伊東市立南中学校	実践者	養田 竜史
対象	中学3年生		時間数	$\alpha + 4$ 時間+ β
担当教科	社会科		実践教科	公民・道徳・総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の生活のレベルに予想以上の格差があり、その現実を知ること ・「募金」をすればいいという発想から、自立を促すために私たちができることを考えようとする ・世界の社会構造が変わらないと根本的な解決には至らないことが意識できる。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	0	「世界の友と手をとらん」【学年全体での総合学習】(8時間) ・3～4人のグループごとに割り当てられた国(全60カ国)の大使館に伊東の産物とともに手紙を送り、資料を請求。それを元に調べ学習と発表。現地の方との文通を通じた交流。		☆世界には多様な国があることを知る
	1	「世界の現実を直視しよう～世界が100人の村だったら～」 ・2005年放送 アルゼンチンのスラムに住む13歳少女の出生 ・面積ベスト7(ろの法則)と人口ベスト10の国を当てよう(地理復習) ・自分たちってどれだけ豊かなの？一日80円で暮らす方法は？		
	2	「貧困とは何か考えよう～バングラデシュの写真から～」 ・夏の研修で撮った写真を使いながらバングラデシュの現実を紹介 ☆路上の水たまりで、医療廃棄物を洗う少年たちの写真などスライドショーで ・貧困ってなんだろう？思いついた言葉で連想し、どんどんつなげていこう。 ・貧困に関係する8枚のカードを、原因と結果の流れで輪してみよう。 ・貧困の悪循環から抜け出すためにはどうしたらいいだろう？		
	3	「貧困から抜け出すために～ブラジルのファヴェーラの現状とNGOを例に～」 ・世界の子どもたちの現状を知ろう(飢餓・人身売買・少年兵・薬物・虐待・労働) ・映画「シティ・オブ・ゴッド」を例にブラジルの現実 ・根深い差別意識⇒ファヴェーラ住民にさえある歪んだ偏見 ・NGO モンチアズールを例に、自立する住民たちと異国からのボランティア ・国際援助・協力の違いって何だろう？		
4	「マイクロクレジットの可能性～ベンガル人の生き方を通して～」 ・班で『バングラデシュ版・ファミリーロールプレイ双六』をやってみよう。 ・マイクロクレジット、エンパワメントって何？ 来年度へ続く・・・			
成果	① 国際社会に目を向け、様々な生活をする人々の存在を知ることができた ② 自分たちが置かれている環境に感謝をし、これからできることがないか考えるようになった。 ③ 物事を多面的に見て、いろんなソースから検証すること(メディアリテラシー)の重要性を理解した。			
課題	生徒の興味を引き付け続けることが前提となってしまう、体系的なプログラムになっていなかった。本当に貧困をなくし、不平等な社会をなくすためには国際政治・経済に目を向けなければならず、追及していくと教科書・マスコミ等から一般には知らされない多くの課題が見えてくるが、公教育の実践の場で踏み込むことが難しい。			
備考	この1年で完結するプログラムではなく、今後改良しながらどんどん発展させたプログラムを考案していきたい。ということで、今回の研修はきっかけに過ぎず、もっと外に出るチャンスを少しでも多く持ちたいと思います。			

0時間目 「世界の友と手をとらん」【学年全体での総合学習】(8時間)

・クラス内で3~4人のグループごとに分かれ、くじで調査・交流する国が決定した。7クラスあるので全60カ国。各国の在日大使館に手紙を書き、干物やお茶(グリ茶)など伊東の産物とともに郵送し、資料を頂けるかということと、現地の人と文通などの交流ができないかを打診した。夏休み後に、大使館から返事・資料が送られてきたのはやく半数の国に過ぎなかったが、インターネット・文献等から調査を行い、各クラスで発表会を行った。大使館から返事が来たグループの中には、その国の名産である食べ物やお菓子、簡単な玩具等が入っているところもあった。また、たった1グループではあるが、大使館を通じて本国の学校の子どもたちから直筆の手紙が届いて、まさに交流がスタートしたところもあった。



直接、私個人が企画したものではないが、学年全体で国外に目を向ける大きなきっかけになったことは間違いない。調査に関しては、教師側が細かいアドバイスを特にする事はなかったため、観光パンフレットなどを中心に、その国の見せたい部分(良い部分)を取り上げているグループがほとんどであり、なかには独立した歴史等をインターネットで詳しく調べたグループもあったが、貧困問題や開発途上国の問題点に言及した調査は見られなかった。

【はじめに】

バングラデシュを目の当たりにした自分自身ができることは何か? やりたいことは何か? やるべきことは何か? 考えてみた。8人の研修生はほぼ同じところに行って、同じ物を見て、同じような経験をしてきたはずであるが、感じ方、見えたもの、そして考えたこと、問題意識は全く違うはずである。それは、この研修に参加する動機が様々であるのと同じだ。ブラジルの貧民街(ファベラ)で一年間過ごした経験や、様々な国々を見聞したことなど全てを踏まえて、生徒たちに訴えたいこと、学んでほしいこと。それは、「人類の未来の可能性」に他ならない。表面はきれいでも、真実は知らされず、欺瞞と不平等で複雑な構造が作られていることに気が付かされていないことも多い。貧富の差どころか、幸せの格差も拡大していくばかりで、人類はそれを止めることができていない。大人さえ、本当の意味でこのことに気が付いていないのに、ましてや中学生にどのように気が付かせるか。とても悩みながら毎日授業をやっている。そして、落ち着いて授業を受けさせるためにも、自分自身が衝撃を受けたままの思いをぶつけるしかないのではないかという結論に達したのだ。中学生にとって、衝撃が大きすぎるのではないかと何度も自問自答した内容もたくさんある。もし、実際に現場で見たわけでない人が、単発的にその衝撃的な教材だけを取り上げるのであれば悪いイメージだけで終わっていくかもしれない。しかし、公民の授業を通して、常日頃から国際問題について語り、学んできた生徒に対しては、十分な配慮の上なら逆に効果も大きいという自信もあった。

1時間目「世界の現実を直視しよう~世界が100人の村だったら~」

世界にはいろいろな国があることを知った生徒たちが、自分たちの住む日本を客観的に位置付けしやすいように、まず面積と人口についてゲーム感覚で復習した。世界地図を見ながら大きい国をベスト7まで挙げていくが、実はロシアをスタートにして太平洋を挟み、ひらがなの「ろ」を書くと面積ベスト7をあっという間に覚えられる。生徒の興味が増したところで、200近くある国家のうち日本が何番目に大きいかを知る(60番目? 意外と大きい! の反応)。人口はアジアに6割がいることを知り、さらにベスト10の中にもアジアの国が6つランクインすることを知る。

100人の村のデータを一緒に考えながら、貧困って何? 1ドル以下で暮らすこと? 一つの目安として、一日80円でどうやって暮らす? パンの耳だけで毎日我慢できるの? といったやり取りがなされる。このクラスの中には字が読めない人も、お金がない人も、安全な水を飲めない人も1人もいない、ということを確認する。

そして、シリーズ化しているテレビ番組の「100人の村だったら」を視聴する。様々な国の子どもが紹介されてきたが、最も中学生にとって真剣に見ざるを得ないのがアルゼンチンのスラムに住む13歳の少女ナディアのストーリー。中3生にとっては、年下にあたるが、親にも、恋人にも捨てられ、たった一人で物乞いをしながら出産・育児をする彼女の姿が同じこの世の現実とは思えないぐらいショックがあるようだ。

【13歳で出産したアルゼンチンの少女の物語をみた感想】

・日本は少しぜいたくをしすぎだと思った。食べ物を捨てることはすごくもったいないと改めて分った。・この少女と同じ路上で暮らしている子供がたくさんいる。それは親の育児放棄が原因だし、それで子供が苦しめられるのはおかしい。・子供のころから、当たり前前に食べたり、ねたりできる家があるのは親のおかげなので感謝したい。・みんなが協力してみんな裏切らずにもらったものをみんなで配り合っているのもすごい。自分だったら食べちゃうなと思う。・自分も男だけど、男は勝手だ。・自分が、小さいときに親に捨てられ満足に育てられていないような子供が、本当に愛情をもってその子供には精一杯悲しい思いをさせないように、がんばってもらいたいと思う。・とても悲しい気持ちになって、こういう人たちに力を貸してあげられたらな、とすごく思った。こんな世界がなくなることは難しいと思うが、一人でも減ってくれるよう、それが現実となり、変わることを心の中で願っていききたい。・ナディアは本当にすごくて、13歳ってことを忘れそうになった。日本では全然ないことだからすごくショックでびっくりした。想像付かないことばかりで何て言ったらいいのか分からない。とにかくすごくびっくり。全然知らなかった。・父親のいない子を産むって、やっぱり女の人は強いなあって思った。・同じ地球上にいて、こんなにも貧富の差があるのは知らなかった。裕福でない人を見ても振りをする大人たちや国を残念に思った。将来こういう国が一つもないようになるといい。・食事が2日に一回って聞いたときに、食べ物を残す気になれなかった。これが現実だと思うと鳥肌がたつ。・私たちの何気ない行動でどれだけの人が救われていたのでしょうか…。食べ物がなくて、いつ死ぬか分からない状況だったら、とても怖くてどうしたらいいのか分からなくなってしまったと思いました。これからの生活で、世界にはいつも死と隣り合わせという人がたくさんいるということをおぼろげに覚えておきたい。・母として自立しようとする強い精神力を見習おうと思った。・同じ地球に住んでいるとは思えない。すごいショックだった。・私は親がいることが当たり前のように思っている。だから幸せな写真とかわからないけど、少女は幸せな写真があり、それが宝物だということがすごく悲しく思えてきた。・募金活動が大切だと思った。世界には貧乏人に冷たい人が多いと思った。豊かな暮らしを貧しい暮らしに分けてあげて、世界で統一したほうが困る人を減らせると思う。・今、ここで勉強していることも彼女たちからしたら夢のようなことなんだと分かった。・日本が、こんなに豊かだと思ったことがなかった。もっとNPO法人みたいな組織が動いて、世界の貧困を軽くできたらいいなと思います。まずは、自分の住んでいる国が変わらないといけなかなと思いました。・全員を助けられないのは仕方がないけれど、そういう子供たちを助けてあげようとする人が回りにいないことに驚きました。・今の自分達にできることはしっかり、世界の状況に目を向け、理解し、自分の行動を考えることです。・この人は俺より絶対努力しているし、金を稼ごうとしてる。こんなに一つの命のために一生懸命努力してるのを見て、高校進学とか、人生を半分諦めかけている自分に本当に腹が立ちました。自分ができることは、物を大切に自分の決めた道を簡単に諦めないでこの人たちに恨まれるようなことはしないでいきたい。・スラム街で育つ赤ちゃんが幸せに生きられるとは思えない。でも、そうさせているのは私たちだし、誰にも止める権利はないはず。私たちが化粧品を買うのを止めると、何人かの食料が買えて命が助かると聞いた。見た目を気にして綺麗にすることが、誰かの生きることを難しくさせているなら、それはすごくおかしいと思う。世界の食料などのバランスを崩しているのが私たちなら、それをもとに戻せるのも私達だと思う。必要のない物にお金を使ったり、食べ物を残したり、まずいと言って食べないのは本当にいけないことだと分かった。受験勉強は嫌だけど、嫌になるほど勉強できるってすごく幸せなことなんだと思う。日本でやっている募金は本当に届くか分からないから、あまりしたくないけれど、まずは現状を知ることが大切なんだと思った。・ストリートチルドレンがいるのはその親の責任だけでなく、それを助けることができない国や外国、つまり日本などもいけないとおもいます。今の世は、自分の国のことしか考えないけど、それを世界や地球に向けて考えられれば…。貧富の差が生まれるのをしょうがないで済ませてはいけなかなと思いました。人の生きる世界は理不尽だと思いました。・私も含めて今は自己中人の人がとても多いと思います。彼女達みたいにお互いを思い合い協力することは、現代の日本人にとっても必要なものだと思います。・こんなに強い子なら学校の先生になれると思う。自分もこの子みたいに強くなっていきたいです。

・手術を無料でやってくれるのは良いと思うけど、それよりストリートチルドレンを保護したりもっと他にやることあるんじゃないの？と思いました。自分の子供をなぜ捨てるのですか？全くわかりません。なぜですか？・普段、テレビではアルゼンチンの良いところしか映さないけど、その裏側ではこのようなことが起きていることが分かったのは良かった。・こんな苦しい中で笑ってテレビの取材に応じる勇気がすごいと思った。両親の愛情をもらわずに、それがどんなものか知らないのに、その愛情を子どもに与えるのは難しいと思った。・このビデオを見て、私たちが笑っている時、苦しんでいる人達が世界中にいと知ることができました。今、できることは自分の生活を見直すことです。帰られる事はわずかなけど、そのわずかなことを大事にしていきたい。・今、自分が何をすればいいのか分からない。ストリートチルドレンに何かしようと思っても、自分には何も出来ない。これからどうすればいいのか考えさせられた。この子どもたちに負けないように必死に生きていこうと思った。・自分だけ満たされれば良い、という人がいなかった。人間は自分を一番かわいがる動物だけど、協力したり助け合うことが本当に大切だと改めて感じれた。・経済が発展していても、貧富の差は出来てしまうのか...・13歳のころの自分を重ね合わせた時、自分はとても人に甘えて生きていると思う。・ゴミを漁って、それを見て怒る大人はどうかと思う。必死で生きているのに「見苦しい」というのはありえないと思った。・日本もいつかこんな感じになるのかなと思った。

2時間目「貧困とは何か考えよう～バングラデシュの写真から～」



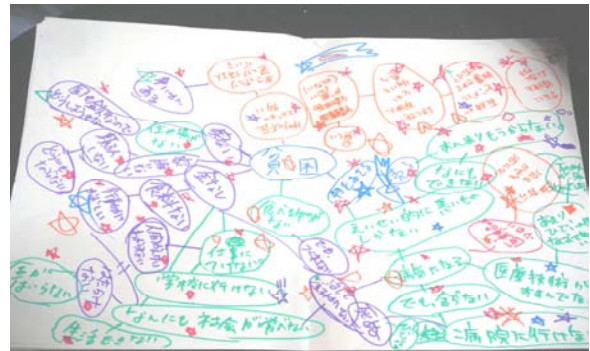
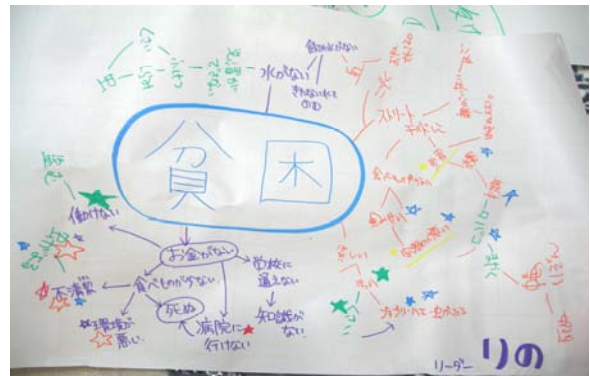
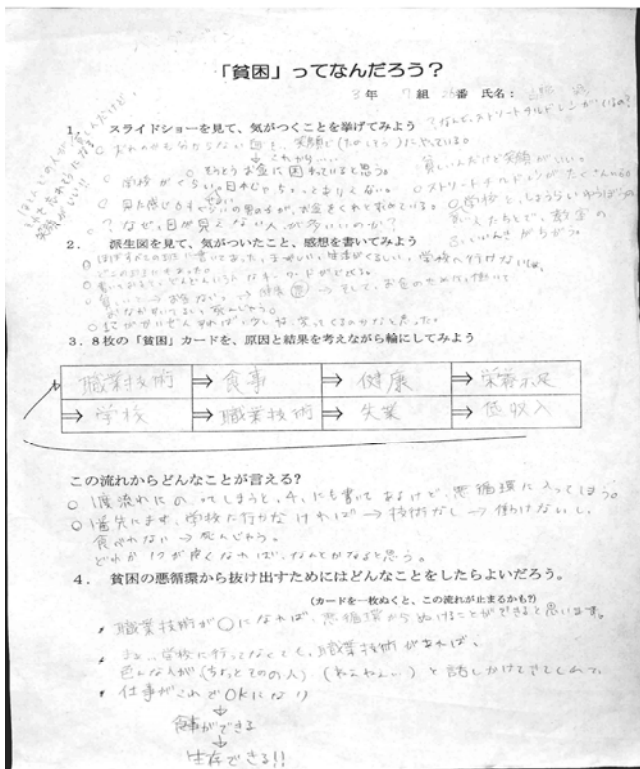
まず、夏の研修で撮った写真をDVDスライドショーにしてバングラデシュの現実を紹介した(10分)。一枚目が最も衝撃的な写真である。一時停止をして二人の青年が何をしているか考えさせる。「血」には気が付くが、注射針などを洗っているのを理解するまでにはしばらく問答が続く。ごみを収集しながら生活をしなければならないこと、物乞いの現実、明るい子どもたち、学校や教師のための学校、無料診療所、シヨミティ、市場、エクマツラの活動などを解説していく。次に、貧困とは何かを考えるために、班ごとに連想した言葉をどんどんつなげていった。カラフルに仕上がった模造紙をローテーションで回し、新しい発見をした言葉には印をつけていった。その後、JICA研修で既出である貧困に関係する8枚のカードを、原因と結果の流れで輪にして、貧困の悪循環から抜け出すためにはどうしたらいいか、教師が答えをいうのではなく各自で考えた。

【スライドショーの感想等】

・お金がなく貧しくて生活も苦しいはずなのにあんな笑顔でいられるのはすごい。スポーツ学校は施設も整っていて制服もきちりとしている一方で、金もなくストリートチルドレンもいて、貧富の差が激しいのかなと思った。
・みんな貧困で困っているけど、笑っているのに気付いた・貧しくても元気な人多そう
・イケメン、美人の子もたくさんいた、昔の友達に似ているやつがいた・衛生面がしっかりしていないから目の見えない人が多い？
・学校では日本の先生が行って教えたりしている、先生たちも他の国の先生に教わっている。
・日本ではやらないこと、出来ないことを笑いながらやっている

【貧困の連想】

・やはり印象の悪い言葉しか書いてなかった・良いことが何も無い！
・班によって考えることが違うと思った・貧困から生まれることがたくさんある・戦争などの大きなことにつながる・人間関係に被害が及ぶ・色々な意見があって、人によって視点が違うんだなと思った。みんな書いていくとどんどん負の連鎖になっていった。
・こんなところ住みたくない・当たり前だと思っていたことができない・みんな貧困に対して悪いイメージしかない・貧困から国に広がる悪影響も知った・もうどうにもならないのでは？と考える人が多い・一回貧困になると抜け出せない・最終的に貧困に戻ってしまい、連鎖が続いてしまう。



【解決するには？全体感想】

・学校に行かないと始まらない・もっとたくさん学校をつくる・こういうのを見ていると、こっちが贅沢してちょっと悪いと思った。・学校の先生が教育をしっかりさせる・これから自分の生活を見直さなければならぬと思った。・自分からすれば、うわ汚い...かと思うけど、その国の人たちにとっては、生きていくためには、大切な事で生きること必死だと思いました。・一度貧困になってしまうと、それで学校に行けなかったり、ご飯も食べられなくなってしまうので、お金の有る人や外国などみんなで協力してこの貧困のサイクルを止めることが大切なんだと思いました。・世界中の国が貧しい国を助けてあげればいいんだと思いました。日本みたいなのが普通だと思っていましたが、違うんだと思いました。日本人に生れてきたことにありがたみを感じた。・不衛生なことで障害児が産まれたりするの、国が街を掃除して衛生面だけでも変えた方が良く思う。・こんな内容を笑って話してもいいのかと思った。両親とも健康で学校に行けて、少しぐらいなら贅沢できるのが当たり前な私たちだからこうやって他人事のように上から目線で語れるんだと思った。そう言っても何も変わらないから、自分から何らかの行動を起こすのが大切なんだと思った。・貧困の国は誰も何かを変えようとしていない。一人が無理なら、何人かのグループを作って何かを変えようとする方がいいと思う。今のままでは本当にどうしようもない。もしかしたら、国民の力ではどうしようもないかんじまで進んでいるのかもしれないけど、行動に移すことが大切だと思った。自分も何かの役に立ちたいと思う。自分の夢が医療関係なので、大人になったら何か活動をしたい。・貧困が人間の人生をだめにしている。でも、どこか一つでも変われば(例えば、国会議員を作ったり、他の国が支援したり)違うと思う。私はまだ何もできないけれど、学校に行けない人のためにも、食べることができない人のためにも、好き・嫌いなく食べたり、学校に行ったり、ちゃんとしたい。・貧困に苦しむ子供たちの事はテレビとかで見たことはよくあるけど、バングラデシュはまだまだ良い方なんじゃないかなと思った。学校もあるし、ストリートチルドレンの子たちが住むような家もあるし...

3 時間目「貧困から抜け出すために～ブラジルのファヴェーラの現状と NGO を例に～」

授業者が一年間過ごしたブラジル・サンパウロ市の NGO モンチアズール住民協会での経験を交えながら世界の子もたちの現状を考えていった。また衝撃的なシーンも多いものの、初めてブラジルのファヴェーラ(貧民街)を正面から取り上げたとして、世界中からの評価の高い映画「シティ・オブ・ゴッド」の場面を慎重に選びながら視覚的にも理解を深めた。

なぜ新興国として注目されるブラジルでさえも大きな貧富の差があるのか。一つにはファヴェーラ住民にさえある歪んだ偏見と根深い差別意識があると授業者は考え、モンチアズール住民との付き合いの中で見えてきた貧困に対する差別意識をとりあげた。また、NGO モンチアズールがファベールの見本と言われる所以である、「自立」を促すシステムと援助・協力にも触れた。

4 時間目「マイクロクレジットの可能性～ベンガル人の生き方を通して～」

『バングラデシュ版人生ゲーム・家族対抗ロールプレイ双六』

今回のプログラムのメインとも言える人生ゲーム。ずっと悩みながらなかなか準備が進まなかったが、2011 年になって一気に満足する物が完成した。まず、3 時間目の自立と支援ということを念頭に、アジア最貧国と形容されてしまっていたバングラデシュの人々が元気になってきている（ような気がする）のはなぜか？それが日本をはじめとした先進国の援助だけではないことを気が付かせるのが、この最終時間の目標である。シヨミティの様子やマイクロクレジットの通帳の写真を掲示し、授業の冒頭にマイクロクレジットの基本だけをポイントを押さえて説明する（5 分）。そうでないとこの人生ゲームができないからである。女性しか借りれないことを言うと「なんで男性はだめなの？」と率直な意見が出ればしめたもの。

早速、男女ペアが2組の4人グループとなり、「仲良く」机をくっつけさせる。初めは男女で夫婦になることを聞くと、騒ぐ者・黙る者と乗り気でないが、10分後には真の協力が生まれるのだ。結論として人数合わせは、無理に3人家族を編成するより（役割があいまいになってゲームに入り込めない⇒つまらない）、一人二役でもいいので役割を持たせることである。つまり5人一班より3人一班の方がベターだということだ。最初の説明を徹底し、ワークシートの記入も丁寧に解説した方がスムーズに遊べるのは間違いない。

しばらくは、やり方の質問が続くが生徒たちもすぐにのめり込んでいく。生徒指導上問題のある生徒たちも、この時間だけは最後まで着席し、笑顔が絶えなかった。ここに載せた資料は授業後に改良を加えたものだが、やはり実際に何度も生徒にやってもらうことで、マス目の内容を変えたり、4戻るを3戻るに変えたりといろんなことが見えてくる。玩具メーカーの開発担当は何百回と試すのだろうと思ったりした。後半はカードを引いて、実際にマイクロクレジットを実感する。最終的にはマイクロクレジットを選択しないと、なかなかゴールできない仕組みになっているので、この人生ゲームはマイクロクレジットを学ぶということもあるが、それ自体が自立をするために必要不可欠なものであるという前提に作られている。もちろん、マイクロクレジットにも問題点があるものの、生徒たちには「借金は悪いこと」という固定観念があるため、援助だけでは長続きせず、女性が自ら地位をあげながら、家族も仲良く、少しずつ真面目に生活レベルを向上させる手段としてのマイクロクレジットの役割が生徒に伝われば十分である。多くの生徒が、マス目に書いてあることがインタビューを通して授業者が作ったリアリティのあることを理解してくれていた。ただ、ゲームを盛り上げるためにサイクロンが多かったり、「餓死」を設けたり、確率的な問題点は残る。そこはやはりゲームである。

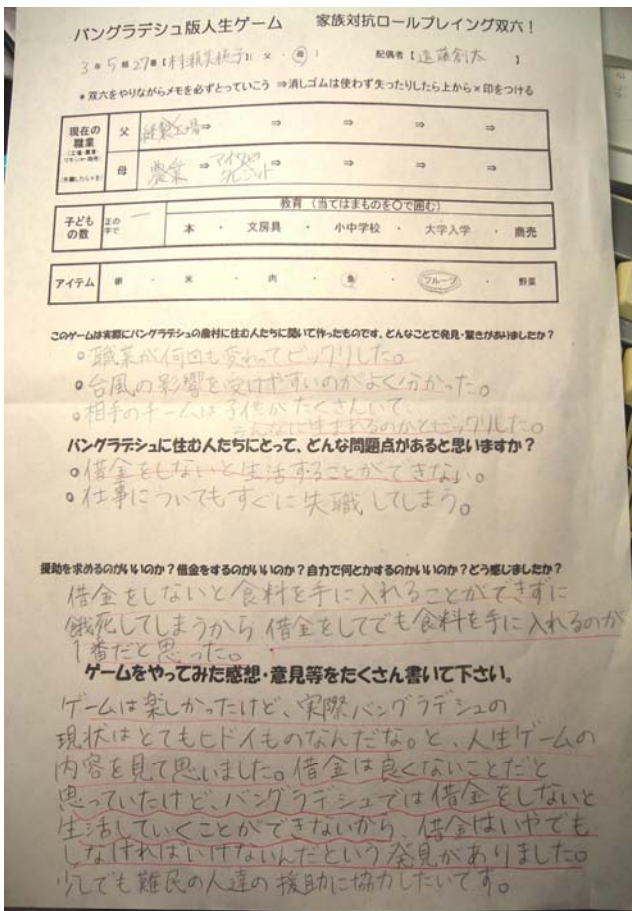
ちょうど、感想も書ける時間が余るぐらいでゴールできるようになっていた。盛り上げに追い打ちをかけるように罰ゲームをやった。「餓死」した家族はお腹がすいているだろう、ということで、バングラデシュで購入した日本人には抵抗のある匂いがする食べ物を食べてもらって、一年間で最も盛り上がった授業は終了。



【生徒の感想より】

・もっと説明があるとわかりやすかった。・借金返済したのに餓死したのはおかしい！・普通のゲームより返済や借金などリアルでハプニングも多くて面白かった。・他の国バージョンの人生ゲームも作って下さい。・バングラデシュに興味が高まった。・現地の人たちの生活がゲームを通して分かった。またやりたい！

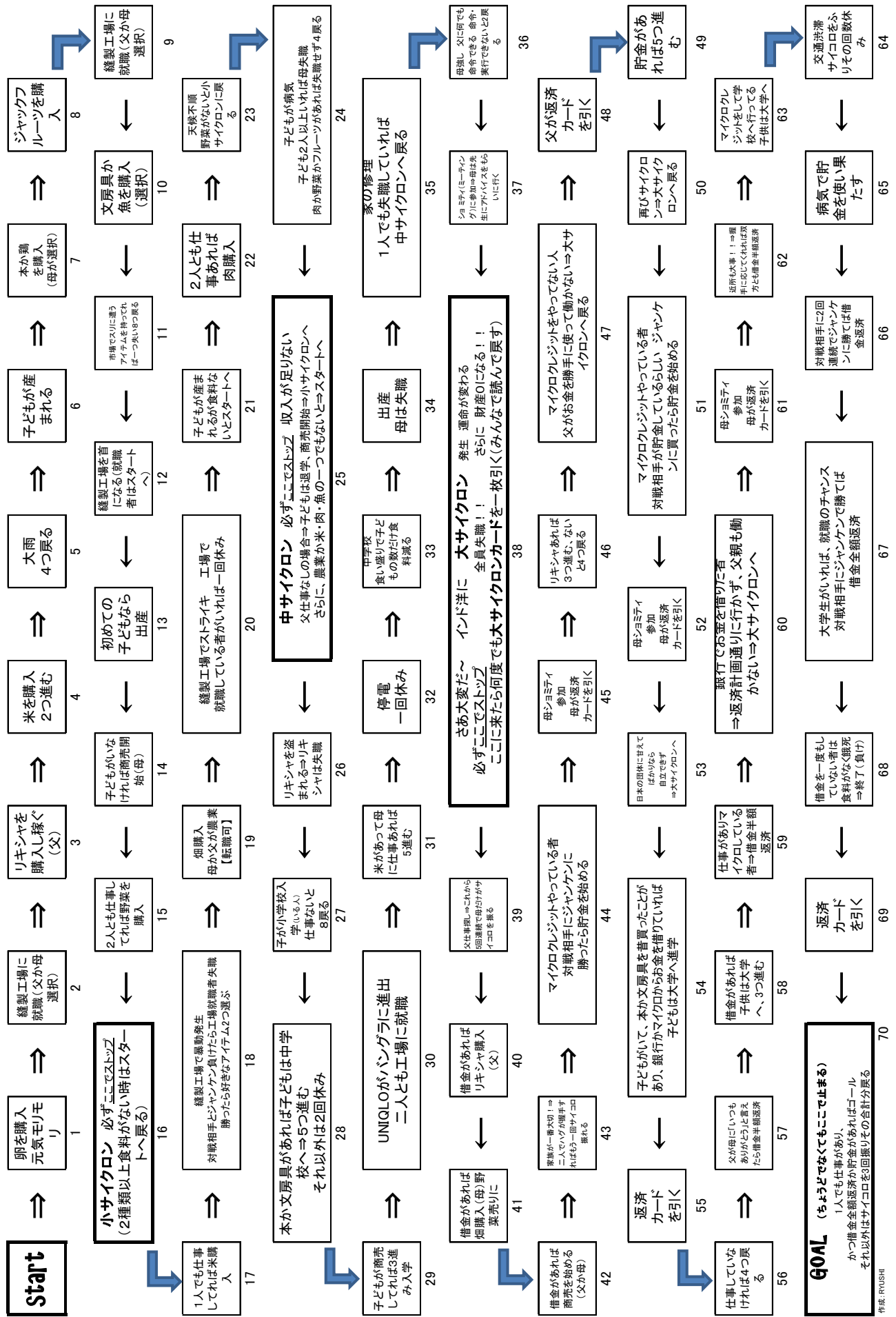
・握手をしたり、いつもありがとうとかを言っているってことは夫婦仲がとっても良いんだなと思った。・今まで積み重ねてきた事でも大きなサイクロンが来るだけで、全てがなくなってしまっただけで大変だと思った。・援助を求めすぎるのもほどほどに、借金もほどほどに？借金をしないと生きていけない。・働いてもいろいろなものを手に入れてもサイクロンが来ることで全て無になってしまうから、なかなか貧困から抜け出せないのかなと思った。・自分たちのやっている人生ゲームがどれだけ楽しかった。サイクロンは手厳しい。・援助を求めるより、借金してでも自力で頑張るのが一番良いと思います。・失業率がすごく高いなあと考えた。・まずは食料が必要だと思った。働ける体があるから仕事ができるのだと思う。・マイクロクレジットなら借りたらいいと思った。多額なら借りないほうがいい。・ただ援助を受けるのではなく、「マイクロクレジット」のように少額の借金をして、自分でなんとかしていく方が、ずっと頼りっぱなしにならずに自立できるようになると思う。・いいマスよりもダメージを受けるマスの方が多くて、バングラデシュの生活そのものなんだなあと考えた。・貧しくても協力する大切さや家族で支えあって生きているんだなあと思った。・失業したら終わりだと思った。・大サイクロンで被害を受けた後は、就職できなかったのでゲームがなかなか終わらない。・母は強し！・借金した方がたくさん進むことができたし、いろんな事が回避できた。・食料だけが大切じゃなくて、文房具とか教育のものも必要なんだと思った。借金も決して悪いだけじゃないんだと思った。・ゴールはしたけど、現実だったら笑い事じゃない。・無理やりの母親役だったけど、いろんなことが知れた。子どもを進学させればなんとかなるという発見があった。・母は頼りになると思いました。・もう少し長いのが良かった。・自力では大変だから、時々借金した方が生活のためになると思いました。・借金してての方が良かった。



大サイクロンカード	父が 大手銀行に お金を借りに行く	母が決める権限 A 大手銀行に お金を借りに行く B マイクロクレジットを始める (母のみ) どちらにするか宣言	家族で話し合う A 借金はよくないので我慢 して生活する B マイクロクレジットを始める (母のみ) どちらにするか宣言
父親が決める権限 A 子どもを売りに出す B ええい、どうにでもなれよ なるようになるさ どちらにするか宣言	母がシヨミティに 参加したことあれば ⇒マイクロクレジットを始める なければ 大手銀行に借金する	家族で話し合う A 日本の団体が助けてくれる のでそこに全て甘える(借金 はないが、いろんなものを くれる) B 借金も援助も要らない とにかく頑張る どちらかを宣言	家族で話し合う A 日本の団体が助けてくれる のでそこに全て甘える(借金 はないが、いろんなものを くれる) B 少しずつなら返せるはずなので マイクロクレジットを始める どちらかを宣言

返済カード	マイクロクレジットして いる者のみ 少額の返済ができない ので隣(対戦相手)に 協力を求め少額借りる ⇒隣の人は2回連続 サイコロを振れる	銀行でお金を借りた 者 ⇒貸している銀行が貸 してくれない(詐欺) ⇒サイクロンへ	どこからもお金を借り ていない者 ⇒食料も手に入らな い ⇒大サイクロンへ	仕事を1人でもしてい れば 4つ進む そうでなければ 4つ戻る
大手銀行から お金を借りた者 ⇒多額の返済を迫られ さらに他からの借金が 増える	マイクロクレジットして いる者のみ (母が連続) A 子どもを大学に行か せる B 自分は農業、父はキ ンクの仕事を始める	マイクロクレジットして いる者のみ シヨミティ(ミーティン) で勤められて 貯金を始める	マイクロクレジットして いる者のみ 数字を2つ宣言してサイ コロを振り、その数が出 れば 借金半額返済	大手銀行でお金を 借りた者 ⇒借金返せず 家族解散 ⇒大サイクロンへ

・2人の家族対抗で行う(母と父と一チーム) ・その都度チェック表に記入するのを忘れないこと ・サイコロは交代で振ること ・転職するかは本人が決定できる ・負けチームは罰ゲームあり? ・引いたカードは見せる ・インタビューを元に作成



作成: RUSH